**タイトルは１４ポイントMSゴシック、太字、中央揃え**

香港プロ夫

**要　　旨**

日本語論文の場合、英語・日本語どちらで要旨を書いてもかまいません。日本語の場合500字程度、英語の場合200語程度で、研究の概観を述べてください。英語の場合は見出しをAbstractとしてください。改行せずに、１段落（1 paragraph）で書いてください。

**キーワード: ５語、以内、中央揃え、12ポイント、太字**

**はじめに**

上下左右に2.5cmのマージンを取り、１行40字、１頁26行。本文は、両端揃えに設定してください。要旨・論文本体ともにMS明朝・12ポイント。

**先行研究**

APAスタイルでは、章や節のタイトル（heading）に番号を振りませんが、つけたい人はつけてもかまいません。論文内で統一されていればいいです。ただし、番号を振ったときでも、一番大きな区切りのタイトルは中央揃えにしてください。

章立ても、とくに統一しません。論文の内容によって、各自適宜、章や節を立ててください。

中央揃えのタイトルの前は１行あけ。それ以外の節のタイトルは行をあけないでください。章・節のタイトルがページ末に来た時は、次のページに送ってください。

**方　　法**

**参加者**

論文の書式はAPA第６版を参考にしてください。日本語で書くときは必ずしも英文の決まりに揃えられませんが、多少のばらつきは論文内で統一されていれば構いません。

**データ収集**

日本語の文献と英語の文献を区別しないでアルファベット順に並べてかまいませんが、分けて並べても問題はありません。各自好きな方でやってください。

**質問紙**　注は、ワードの設定がページ末の脚注になっていることが多いので、それでけっこうです。このテンプレートのように論文末（尾注）でもかまいません。1

**半構造化インタビュー**句読点は、論文内で「、」、「，」、「。」、「．」のいずれを用いるか統一してください。

**結　　果**

表や図の書式は、APAスタイルに準じて作成してください。図表の前後は１行あけにしてください。白紙部分が目立たないように、図表の配置や記述の分量を工夫してください。

表１

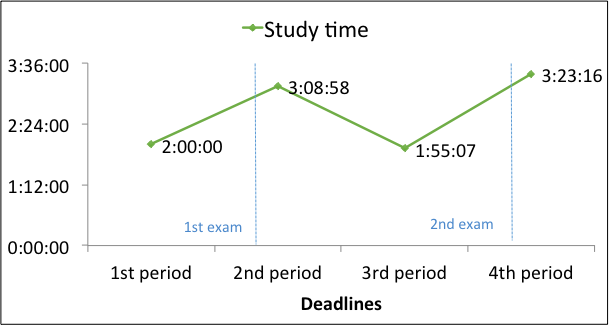
*スピーキングテストの記述統計*

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 事前テスト | |  | 事後テスト | |
| 群 | *n* | *M (SD)* |  | *n* | *M (SD)* |
| 第１群 | 30 | 50.56 (12.31) |  | 29 | 60.82 (15.30) |
| 第２群 | 28 | 48.00 (11.62) |  | 28 | 51.75 (11.89) |

*注. M* = 平均値; *SD* = 標準偏差。

小数点以下は、「対比されているすべての値が同じ位を示すようにしてください」(American Psychological Association, 2010, p. 137)。APAでは図表は中央揃えですが、本報告書では左揃えとします。

図表は、それぞれに通し番号を付けてください。本文のなかで必ず言及してください。１



*図１。* 2014年春学期の平均学習時間。出典：「図の出所のタイトル」〇山△子・□田×男、20XX、『ジャーナルタイトル』、巻数、 p. xx. 著作権者名と著作権取得の年。

著作権情報を上記のように入れてください。APAでは、表のタイトルは表の上に、図のタイトルは図の下に来ます。

**考　　察**

XXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX。XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX。

XXXXXXXX、XXXXXXX。XXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX2、XXXXXXXXXXXXXXXXXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX。XXXX、XXXXXXXXXXXXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXX、XXXXXXX。

**結　　論**

XXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX。XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX。

XXXXXXXX、XXXXXXX。XXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX。XXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX。

謝　　辞

　謝辞が必要な時は、ここに挿入してください。

**注**

1 注は、ワードの設定がページ末の脚注になっていることが多いので、それでもけっこうです。この例のように論文末（尾注）でもかまいません。

2 . . .

**引用文献**

[APAでは直接引用のときだけ頁情報を入れます。また、referencesは引用文献だけを載せるので、論文中に言及のない文献は文献リストに載せる必要がありません。どうしても載せたい場合は、引用文献と参考文献を分けて載せてください。]

**(Authored book)**

American Psychological Association. (2010). *Publication manual of the American Psychological Association* (6th ed.). Washington, DC: American Psychological Association.

Huston, A. C., Wartella, E., Donnerstein, E., Scantlin, R., & Kotler, J. (1998). *Measuring the effects of sexual content in the media: A report to the Kaiser Family Foundation.* Oakland, CA: The Kaiser Family Foundation.

Karmiloff-Smith, A. (1992). *Beyond modularity: A developmental perspective on cognitive science.* Cambridge, MA: MIT Press.

**(Edited book)**

Duck, S. (Ed.). (1988). *Handbook of personal relationships: Theory, research, and interventions*. Chichester, UK: Wiley.

**(Journal article)**

Benson, P. (2006). Autonomy in language teaching and learning. *Language Teaching*, *40*, 20–40. doi:10.1017/S026144806003958

**(Chapter in an edited book)**

Berndt, T. J., & Savin-Williams, R. C. (1993). Peer relations and friendships. In P. H. Tolan, & B. J. Kohler (Eds.), *Handbook of clinical research and practice with adolescents* (pp. 203–219). Oxford, England: Wiley.

**(日本語文献)**

斉藤兆文 (2000). 『英語達人列伝』東京：中公新書．

山森光陽 (2004).「中学１年生の４月における英語学習に対する意欲はどこまで持続するのか」『教育心理学研究』52, 71-82.

**付録1: タイトル**

必要であれば、ここに挿入。

**付録2: タイトル**

必要であれば、ここに挿入。